

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会 令和元年度第2回総会 発言要旨

日時：令和元年8月6日（火）14：00～15：40

会場：文化会館4階 大会議室

（上越教育大学 永井研究連携課長）

○学生について

- ・本学は、全国から学生が集まり、8割が教職、2割が官公庁の道に進む。
- ・多くの学生が卒業後に出身の県に帰郷するが、上越市に魅力を感じてここに残る学生（留学生含む）もいる。
- ・本学には1,300人の学生がいる。学生に対する上越の魅力発信を行い、地域との関わりを持つことによって、学生と将来に渡る関係性をもつことができるのではないかと考えている。

○上越市との連携について

- ・上越市の65歳以上の人口割合は、H27で30.1%、R27で40.6%と推計されており、非常に高い数値であることから、高齢者の健康寿命の延伸、健康づくりが重要ではないかと考えている。
- ・上越市の第2期の視点からは外れるかもしれないが、国の基本方針でも「スポーツ健康まちづくりの推進」が掲げられている。
- ・高齢者の健康寿命の延伸、健康づくりは医療費の縮減や人手不足の解消にもつながる。
- ・上越市がこうした取組を進めるのであれば、連携ができると考えている。

（県立看護大学 長谷川副学長）

- ・本学の学生は、県内出身者の中で一番多いのは下越地区出身者であり、上越地区出身者は一番少ない。
- ・県内の就職口も数はあるが、最先端の技術を学びたいという学生が多く、首都圏の病院に就職する傾向がある。
- ・看護職が人材不足であることも域外流出の原因になっている。

（上越地域振興局 齋藤企画振興部長）

- ・第2期総合戦略の新たな視点8つはアンケート結果などをもとに的確にまとめている。
- ・視点の一つに担い手づくりがあるが、新潟県でも同様にH31.3に改定した総合計画の視点で、「人づくりを重視する 未来の新潟を担う人材を輩出する」ということを掲げている。
- ・現戦略の中で、「市内の観光入込数720万人」という指標があるが、実際の数値との乖離が激しい。第2期では検討が必要。

(上越商工会議所 秋山係長)

- ・資料にもあったが、若い女性が上越市に帰ってこないという点を次期戦略の目標や施策に反映できないか。
- ・自然減を減らすような取組ができないか。
- ・市内大学生が卒業後に留まってくれるような取組ができないか。
- ・看護大学で下越出身者が何人いて、どれくらい上越市に残るのかデータがあれば次回の総会でご教示いただきたい。
- ・商工会青年部の活動と学生がつながることができればおもしろい。